

新型コロナウイルスに関する調査レポート 【パチンコに関する意識調査】



2020年5月15日
株式会社シーズ
シーズリサーチ

調査名

「新型コロナウイルス感染症に関するパチンコへの意識調査」

調査目的

新型コロナウイルスに関するパチンコ遊技者の意識や行動に関する影響
遊技者と非遊技者との意識の違い等を検証する

・調査方法

WEBアンケート

・回答者

【SC】 4919ss

【本調査】 パチンコ遊技者500ss・パチンコ非遊技者500ss

※パチンコ遊技者の定義(過去1年間にパチンコ・パチスロを遊技したことのある方)

・男女構成比

【SC】 男性65.9% 女性34.1%

【本調査】 男性67.2% 女性32.8%

・調査日

2020年5月13日

調査レポート項目

- 緊急事態宣言期間中の余暇参加率(SC)
- パチンコ店への休業要請について
- パチンコ店への休業意向の理由
- パチンコ店における集団感染(クラスター)の情報認知
- 休業要請を受けた後も営業しているパチンコ店について
- パチンコ店における休業率の情報認知
- 緊急事態宣言期間中のパチンコ遊技意向
- 緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技意向
- 緊急事態宣言中・解除後にパチンコ店で遊技する際の感染予防対策
- 緊急事態宣言解除後にパチンコ店が再開しても行かない理由
- パチンコ店が行っている新型コロナウイルス感染症対策の認知について

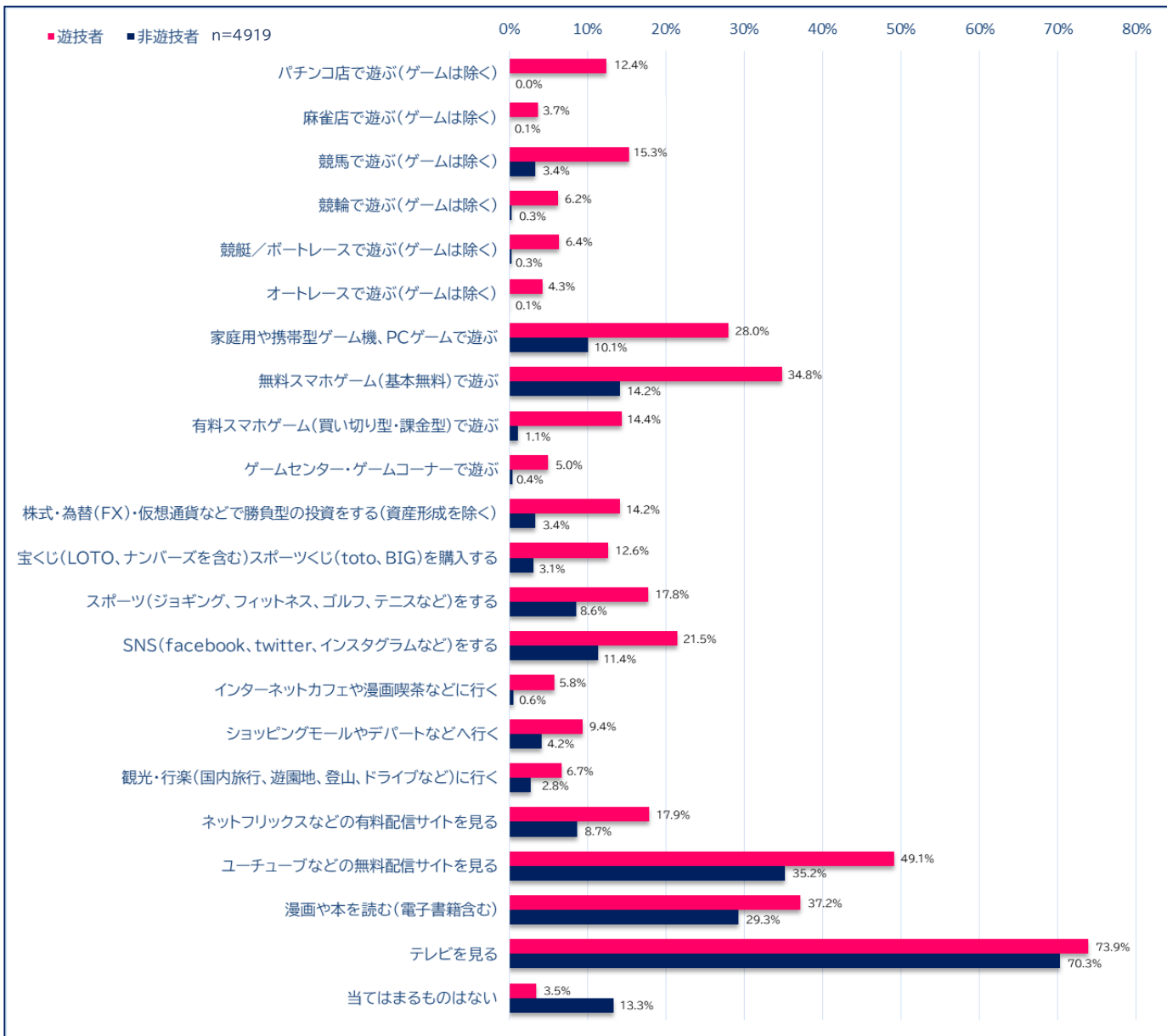
【調査会社】 株式会社シーズ シーズリサーチ
東京都台東区東上野2-20-1 晴花ビル2階
電話:03-6806-0548
MAIL:research@sees.co.jp

—緊急事態宣言期間中の余暇参加率—

緊急事態宣言期間中の余暇参加率は、全体的に「テレビや動画」「ゲーム」など自宅で過ごす余暇が大多数を占める結果となった。

全国的に店舗や施設等の協力休業もあって、弊社が行う例年の調査で上位を占めていた「買い物」や外出にて行われる「観光」「スポーツ」などは、参加率が低く自粛に対する意識の変化もうかがえた。

パチンコ遊技者と非遊技者とをみると、期間中でも遊技者の娯楽参加率は、非遊技者に比べ全ての項目において高い。また、パチンコに関しては遊技者の約9割が参加していないことがわかる。



—パチンコ店への休業要請について—

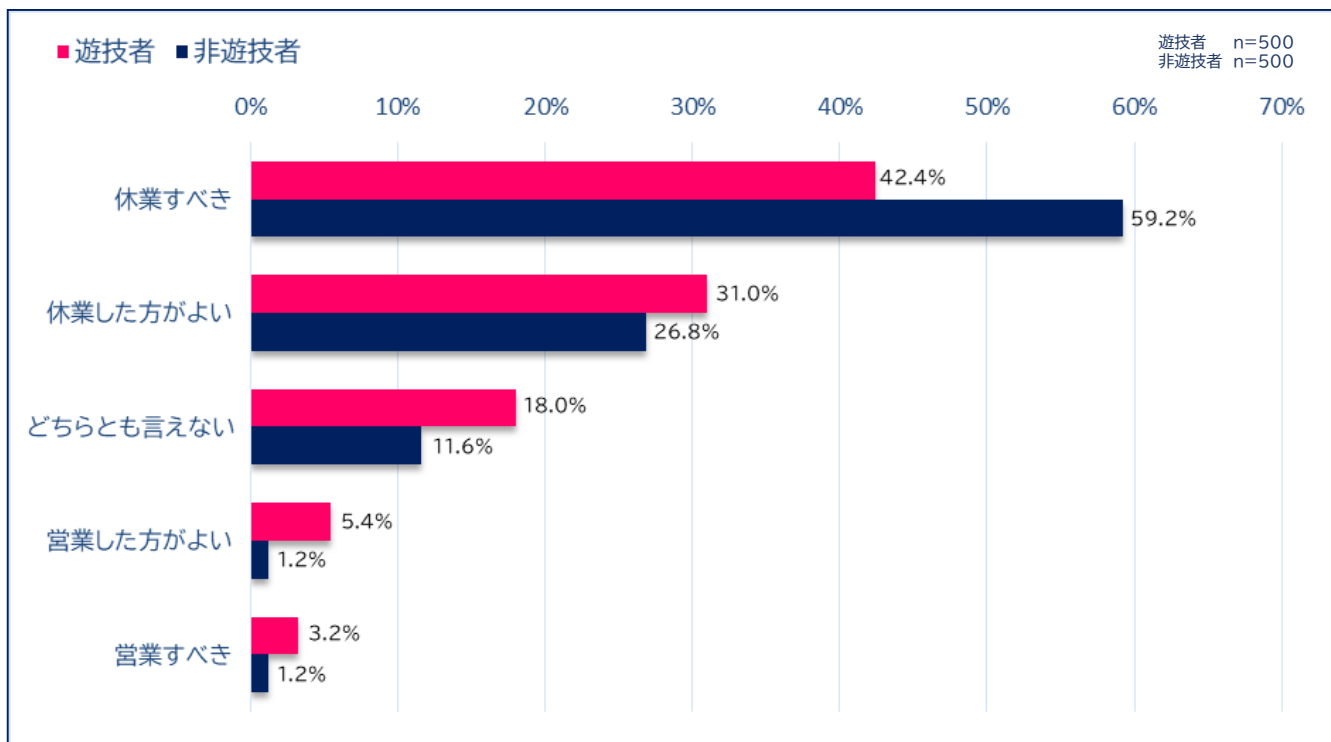
緊急事態宣言期間中にサービス業の中でもパチンコ店が休業を強く要請されていることについて、休業(休業すべき+休業した方がよい)への意向者が全体で約80%となった。

遊技者と非遊技者別にみると

【遊技者】 休業の意向 73.4% どちらとも言えない 18.0% 営業の意向 8.6%

【非遊技者】 休業の意向 86.0% どちらとも言えない 11.6% 営業の意向 2.4%

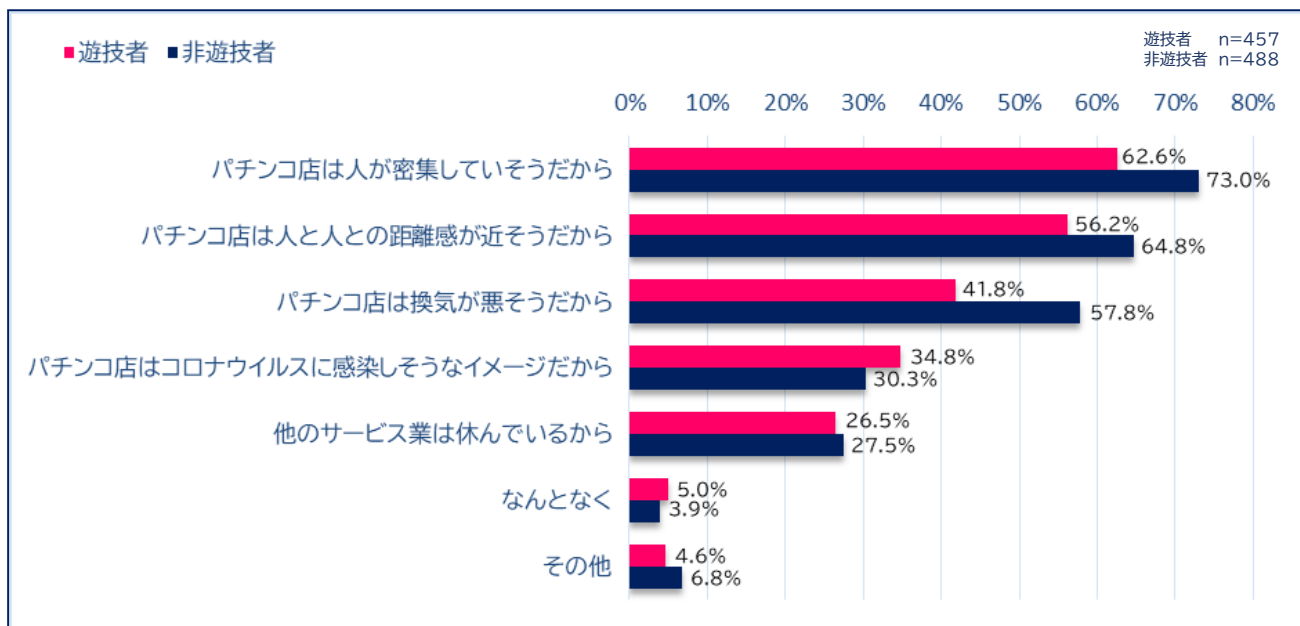
いずれも緊急事態宣言期間中はパチンコ店への休業意向率は高く、遊技者においても営業の意向を示す人は8.6%しかいない。



—パチンコ店への休業意向の理由—

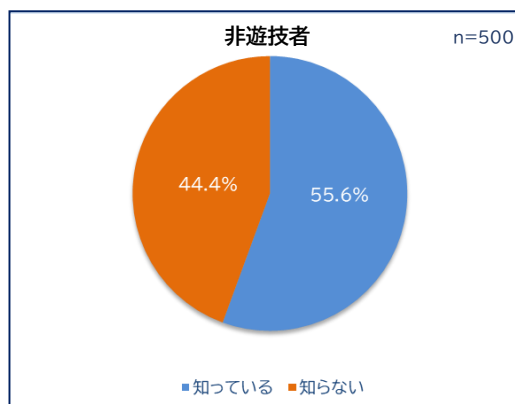
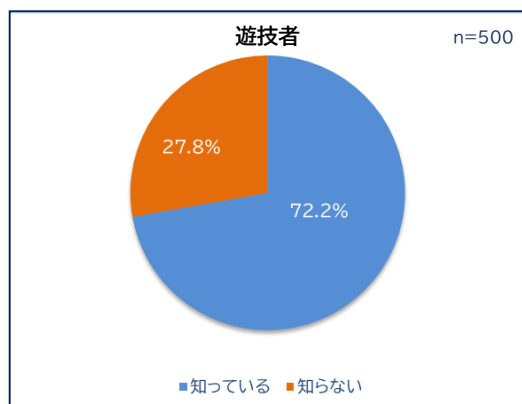
緊急事態宣言期間中のパチンコ店への休業意向(休業すべき+休業した方がよい+どちらとも言えない)理由は、日本における新型コロナウイルスの集団感染が起こった場所の共通点となる3密(3つの密)が上位を占め、全体でみると「密集」「密接」「密閉」の順で遊技者・非遊技者ともに多い。

遊技者より非遊技者の方が、パチンコ店は3密であるとの認識を高く持っていることがわかる。また、「密閉」(換気)の部分で2割程度の回答差が出ている要因は、非遊技者に比べ遊技者の方がパチンコ店の換気環境を若干理解しているのではないかと考えられる。



—パチンコ店における集団感染(クラスター)の情報認知—

パチンコ店が休業した方がいいと思う理由においても関連性をもつパチンコ店での集団感染の有無について、5月5日時点でパチンコ店から集団感染が発生していないことを知っているかと聞いたところパチンコ遊技者の約72%・非遊技者の約56%が知っていると回答した。



—休業要請を受けた後も営業しているパチンコ店について—

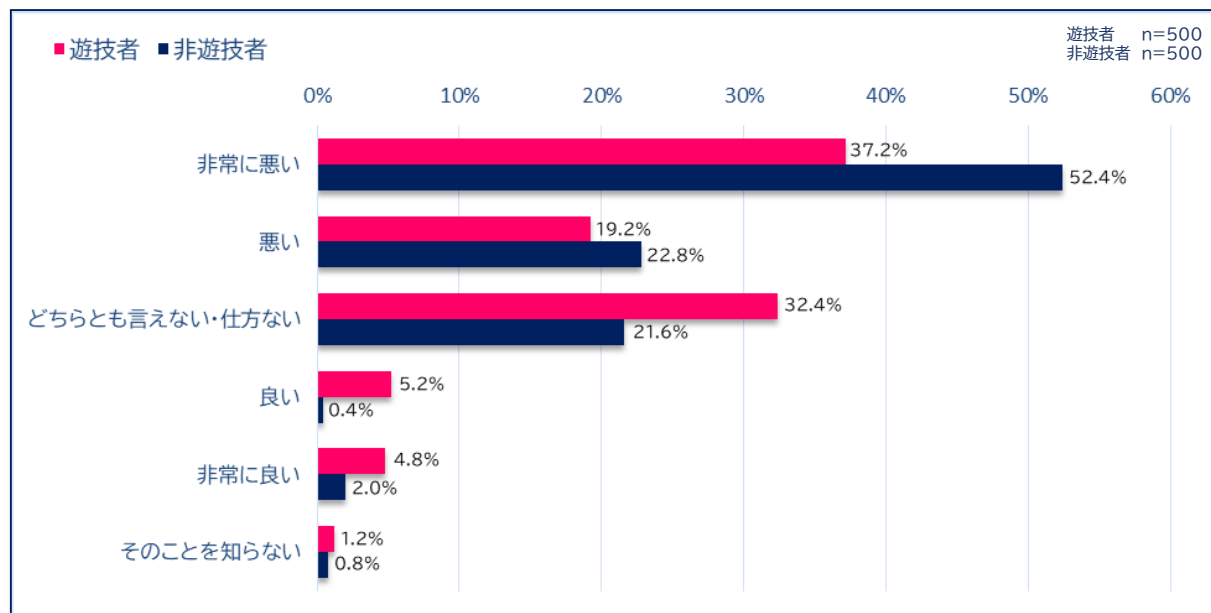
テレビなどで報道されている、休業要請を受けたあとも営業している(いた)パチンコ店について、悪い(非常に悪い+悪い)と回答した人が全体で約66%となった。

遊技者と非遊技者別にみると

【遊技者】 悪い意向 56.4% どちらとも言えない 32.4% 良い意向 10.0%

【非遊技者】 悪い意向 75.2% どちらとも言えない 21.6% 良い意向 2.4%

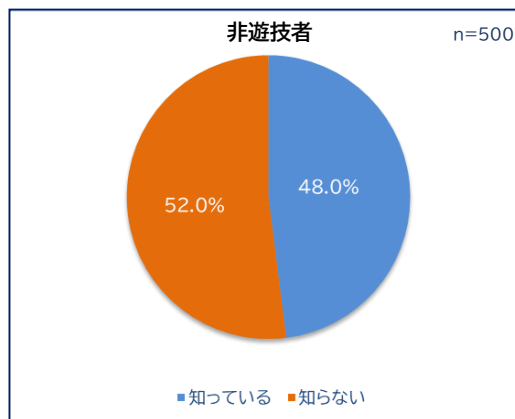
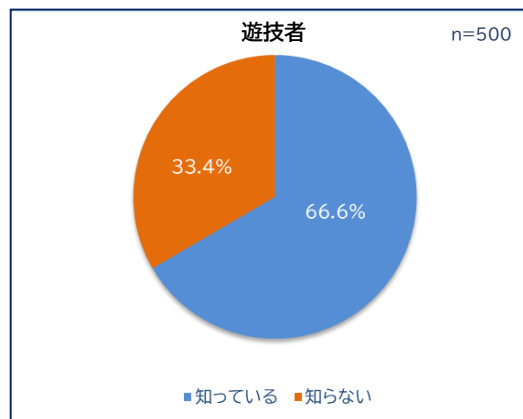
「非常に悪い」と回答した人が最も多いが、遊技者・非遊技者ともに「どちらとも言えない・仕方ない」と回答している人が一定数存在していることもわかる。



—パチンコ店における休業率の情報認知—

5月5日の時点で全国のパチンコ店が約95%以上休業していることを知っているかと聞いたところパチンコ遊技者の約67%・非遊技者の約48%が知っていると回答した。

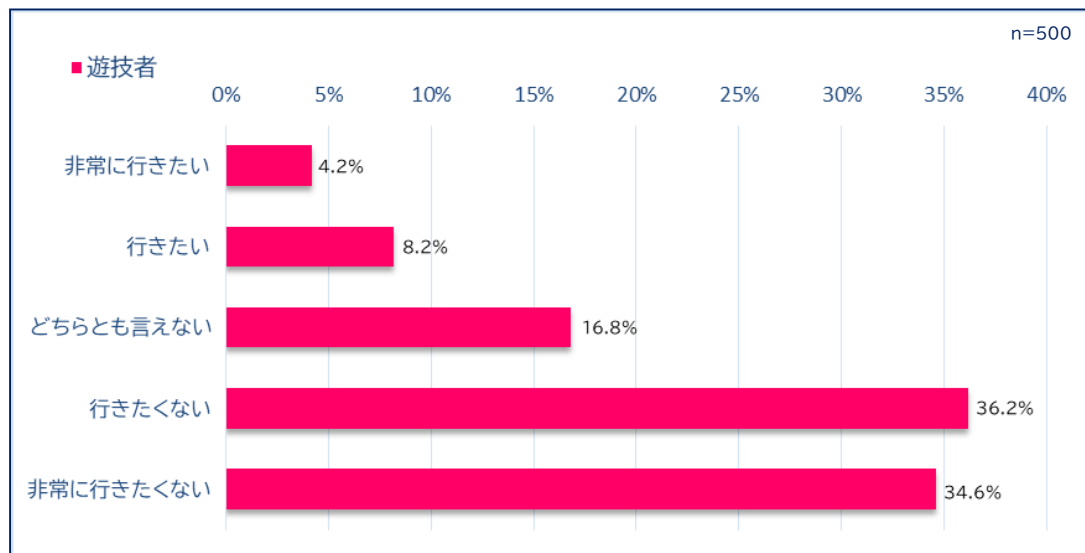
一般メディアでは、休業しない店舗の情報が連日取り沙汰されているが、全体的にこういった情報は扱われにくく休業に協力していても特に非遊技者には認知されていないことがわかる。



—緊急事態宣言期間中のパチンコ遊技意向—

緊急事態宣言期間中でも近隣で営業しているパチンコ店があれば行きたい(非常に行きたい+行きたい)と回答した人は、全体で約12%となった。行きたくない(非常に行きたくない+行きたくない)と回答した人は約71%で、どちらとも言えないは約17%。

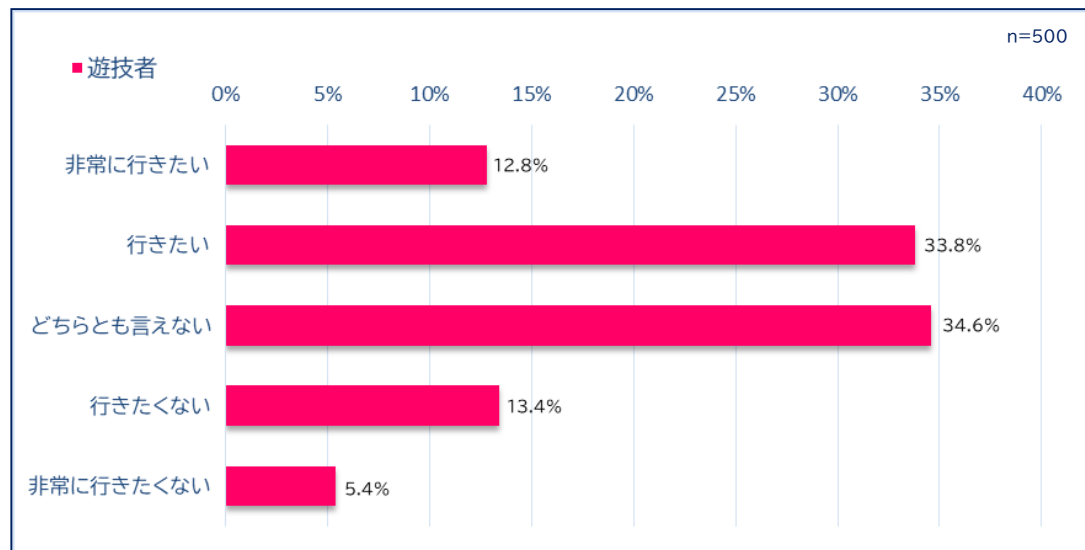
遊技者の中でも、圧倒的に「行きたくない」と回答した人が多い結果となった。



—緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技意向—

緊急事態宣言解除後にパチンコ店の営業が再開したらパチンコ店へ行きたい(非常に行きたい+行きたい)と回答した人は、全体で約47%となった。行きたくない(非常に行きたくない+行きたくない)と回答した人は約19%で、どちらとも言えないは約35%。

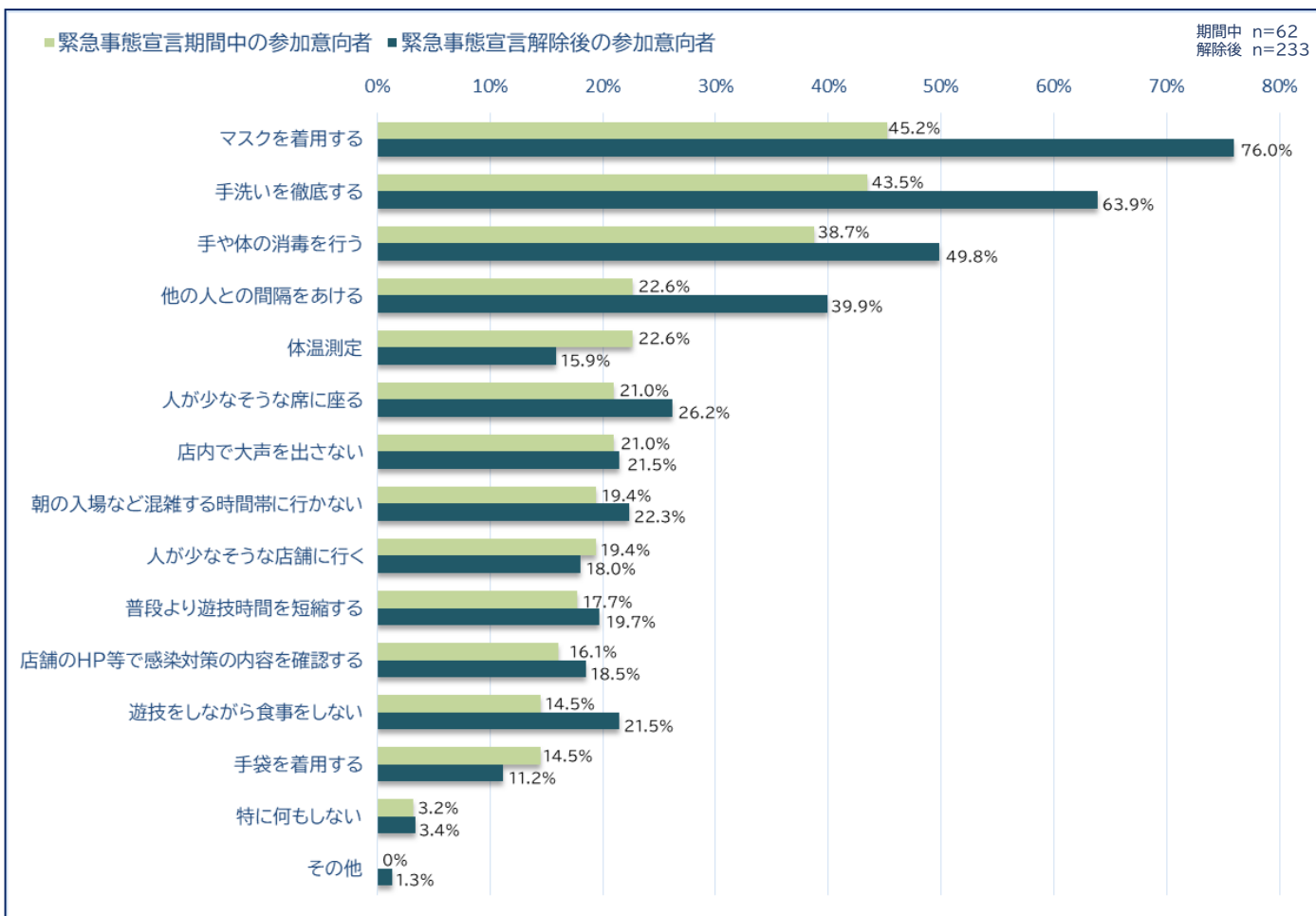
遊技者の中でも、行きたいと考える人が半数を割り、営業が再開しても来店数の減少が懸念される結果となった。「どちらとも言えない」と回答した約35%の遊技者が、今後のコロナウイルス収束までに「パチンコ店へ行くか行かないか」のいずれに転じるのか、パチンコ店にとっては大きな課題となる。



—緊急事態宣言中・解除後にパチンコ店で遊技する際の感染予防対策—

緊急事態宣言の期間中と解除後にパチンコ店へ行きたい(非常に行きたい+行きたい)と回答した人の感染予防対策は「マスク」「手洗い」「消毒」の順で高い。

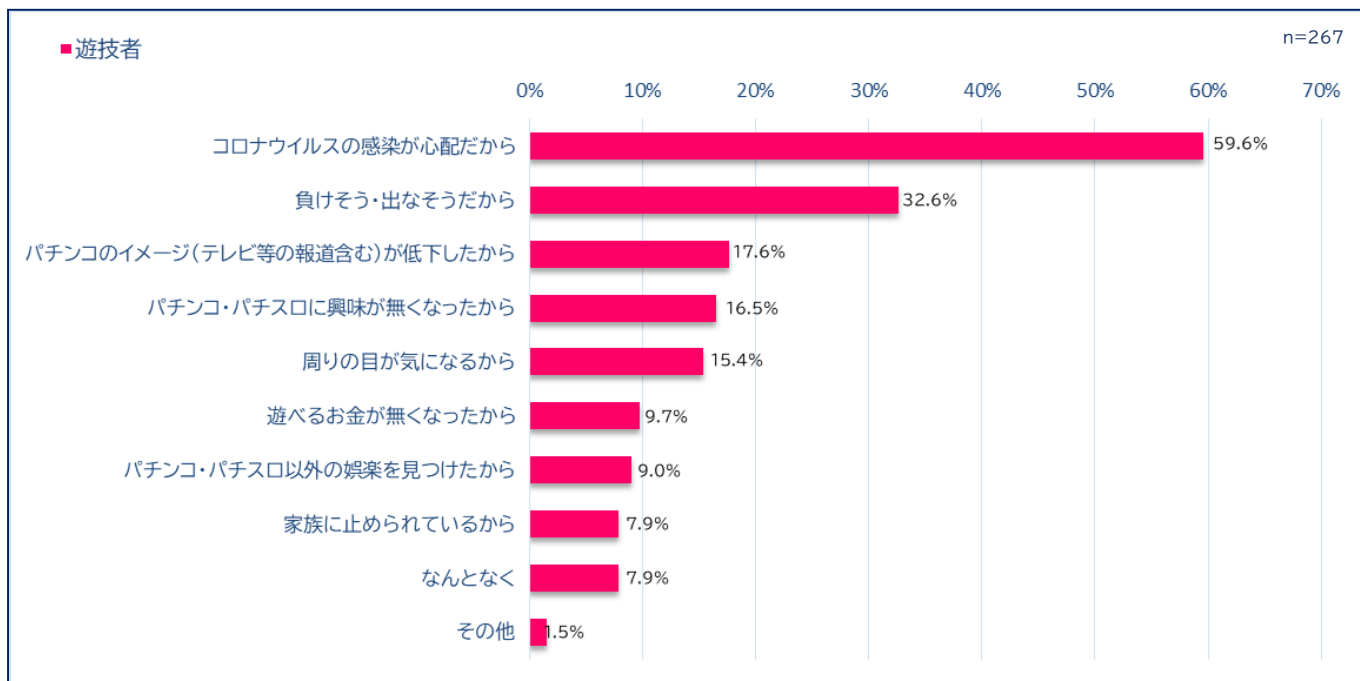
緊急事態宣言中と解除後では、「マスクの着用」や「手洗いの徹底」「消毒」「人との距離感」で大きな対策の取り組みへの違いがみられ、解除後に行きたい意向の方が、新型コロナウイルスに対する意識の高さがうかがえる結果となった。



—緊急事態宣言解除後にパチンコ店が再開しても行かない理由—

緊急事態宣言が解除されパチンコ店の営業が再開しても、行きたくない(非常に行きたくない+行きたくない+どちらとも言えない)と回答した理由で最も多いのは「コロナウイルスへの感染が心配だから」で約60%となった。その他、休業が続くパチンコ店の状況を踏まえ「負けそう・出なそう」といったイメージや、「パチンコ自体へのイメージ低下」など世論の体裁等も理由に続いている。

また、パチンコ店の協力休業中に「興味がなくなった」「他の娯楽を見つけた」といった遊技者も見受けられ、コロナ禍が長引くと、こういった要因から遊技人口が減少する恐れも考えられる。



—パチンコ店が行っている新型コロナウイルス対策の認知について—

全国のパチンコ店では、新型コロナウイルスの感染症対策として遊技客に向けた感染症対策を行っているが、その対策の認知項目を聞いたところ、遊技者にはある程度認知されているが非遊技者には半数程度しか認知されていない結果となった。

認知項目では、遊技者・非遊技者ともに「消毒用品の設置」「来店時のマスク着用」「店内換気の徹底」が上位を占めた。遊技者だけでなく非遊技者も含めパチンコ店の取り組みが、より認知されるようになれば、緊急事態宣言が解除され営業するエリアにおいてもパチンコ店への意識が変わる可能性もある。

